

平成27年度 地域貢献活動支援報告書

所 属 伊賀研究拠点
氏 名 加藤 進、紀平征希、久松眞

活動テーマ	<p>小・大連携プログラムの開発事業 —海の子・山の子交流活動支援事業—</p>																																																				
実施期間	<p>平成27年6月1日 ～ 平成28年3月11日</p>																																																				
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>対象校：玉滝小学校（吹上校長）と鞆田小学校（藤島校長）</p> <p>活動の日程、場所については表1を参照。当所は志摩との交流を模索したが、日程の調整が難しく断念した。代わりに、海に連結、山に連結そして共通に利用できる教材の開発に努め、これを施行した。すなわち、①山の教材、②海の教材、③共通教材である。なお、年度末になり、南伊勢との交流を続けている学校の情報をつかみ、聞き取りも実施した。</p> <p style="text-align: center;">表1 活動状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月・日</th> <th>場所</th> <th>活動内容</th> <th>人員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月8日</td> <td>玉瀧・鞆田小学校</td> <td>各校長に事業の説明と内諾をもらう</td> <td>加藤、久松、松村</td> </tr> <tr> <td>7月1日</td> <td>伊賀拠点</td> <td>松井さんと当面の日程をつめる</td> <td>加藤、久松、松井</td> </tr> <tr> <td>7月9日</td> <td>教育事務所</td> <td>教育長に報告</td> <td>加藤、松村</td> </tr> <tr> <td>7月15日</td> <td>玉瀧小学校</td> <td>虹の科学 吹上校長と打ち合わせ、第三土曜日、学校行事など</td> <td>加藤、伊藤仁</td> </tr> <tr> <td>8月23日</td> <td>伊賀にぎわい祭り</td> <td>この行事にあわせるも志摩サイドから都合で参加できず</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8月24日</td> <td>伊賀市勝地</td> <td>子供11人で森林学習・水鉄砲作り</td> <td>加藤、紀平、荒木</td> </tr> <tr> <td>8月30日</td> <td>(旧)丸柱小学校</td> <td>オーガニックフェスタで水鉄砲あそびを指導</td> <td>久松、加藤、紀平、荒木</td> </tr> <tr> <td>10月7日</td> <td>TLO</td> <td>鞆田の打ち合わせで日程を決める。1月16日</td> <td>加藤、松井</td> </tr> <tr> <td>10月8日</td> <td></td> <td>鞆田の詳細をつめる作業に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月30日</td> <td>TLO</td> <td>鞆田の詳細確認、藤島校長に連絡</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1月16日</td> <td>鞆田小学校</td> <td>アコヤ貝の解剖</td> <td>加藤、松井、上井</td> </tr> <tr> <td>3月11日</td> <td>中瀬小学校</td> <td>南伊勢との交流の聞き取り</td> <td>加藤、松村</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで行ってきた出前授業や土曜日の親子学習会が伊賀のすみずみまで行きわたってきた。 	月・日	場所	活動内容	人員	5月8日	玉瀧・鞆田小学校	各校長に事業の説明と内諾をもらう	加藤、久松、松村	7月1日	伊賀拠点	松井さんと当面の日程をつめる	加藤、久松、松井	7月9日	教育事務所	教育長に報告	加藤、松村	7月15日	玉瀧小学校	虹の科学 吹上校長と打ち合わせ、第三土曜日、学校行事など	加藤、伊藤仁	8月23日	伊賀にぎわい祭り	この行事にあわせるも志摩サイドから都合で参加できず		8月24日	伊賀市勝地	子供11人で森林学習・水鉄砲作り	加藤、紀平、荒木	8月30日	(旧)丸柱小学校	オーガニックフェスタで水鉄砲あそびを指導	久松、加藤、紀平、荒木	10月7日	TLO	鞆田の打ち合わせで日程を決める。1月16日	加藤、松井	10月8日		鞆田の詳細をつめる作業に		11月30日	TLO	鞆田の詳細確認、藤島校長に連絡		1月16日	鞆田小学校	アコヤ貝の解剖	加藤、松井、上井	3月11日	中瀬小学校	南伊勢との交流の聞き取り	加藤、松村
月・日	場所	活動内容	人員																																																		
5月8日	玉瀧・鞆田小学校	各校長に事業の説明と内諾をもらう	加藤、久松、松村																																																		
7月1日	伊賀拠点	松井さんと当面の日程をつめる	加藤、久松、松井																																																		
7月9日	教育事務所	教育長に報告	加藤、松村																																																		
7月15日	玉瀧小学校	虹の科学 吹上校長と打ち合わせ、第三土曜日、学校行事など	加藤、伊藤仁																																																		
8月23日	伊賀にぎわい祭り	この行事にあわせるも志摩サイドから都合で参加できず																																																			
8月24日	伊賀市勝地	子供11人で森林学習・水鉄砲作り	加藤、紀平、荒木																																																		
8月30日	(旧)丸柱小学校	オーガニックフェスタで水鉄砲あそびを指導	久松、加藤、紀平、荒木																																																		
10月7日	TLO	鞆田の打ち合わせで日程を決める。1月16日	加藤、松井																																																		
10月8日		鞆田の詳細をつめる作業に																																																			
11月30日	TLO	鞆田の詳細確認、藤島校長に連絡																																																			
1月16日	鞆田小学校	アコヤ貝の解剖	加藤、松井、上井																																																		
3月11日	中瀬小学校	南伊勢との交流の聞き取り	加藤、松村																																																		

・これを背景に、新たに、高大連携の取り組みも始まり、知の拠点としての意義が深まった。

・なお、非公式にはあるが、「H28年は本校でも海の子・山の子を実施希望」の声も聞かれるようになった。

・竹炭焼きについては web-site で拠点のニュースとして配信、反響があり、奈良からの見学者も出現した。

(3) 共同実施者との連携状況

電話、Fax あるいは面談を通して連絡を密にできた。実施活動上の問題は無かった。 教育委員会（伊賀市）にも周知、教育長も前向き

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

共通教材

①虹：光の問題であり、RGB-LED を使った光教材の開発に発展した。これはいずれ学会で報告予定である。

山の教材

①水鉄砲：孟宗竹を利用する。竹害が広まる中、本拠点で進める「竹の有効利用」の一環である。なお、今回は実施しなかったが、持ち運びが可能な装置で短時間で終わる「竹炭焼き」機も導入、予備試験を終わり、そのノウハウも蓄積した。

海の教材（アコヤ貝の解剖実験）

①これは社会連携研究センターの松井純氏の開発教材であり、伊賀地区で初めて実施した。生徒・教諭の反応は良好、さらに H28 も進めて行きたい

(5) イベント等開催実績（名称、実施場所、参加人数等）

表 1 と重複するが、必要事項について整理した

共通教材の試行：玉滝小学校、20 名

山の教材（水鉄砲）：勝地山林、15 名

同上 : オルガニックフェスタ (旧 丸柱小学校)、50 名
海の教材の試行 : 鞆田小学校、23 人

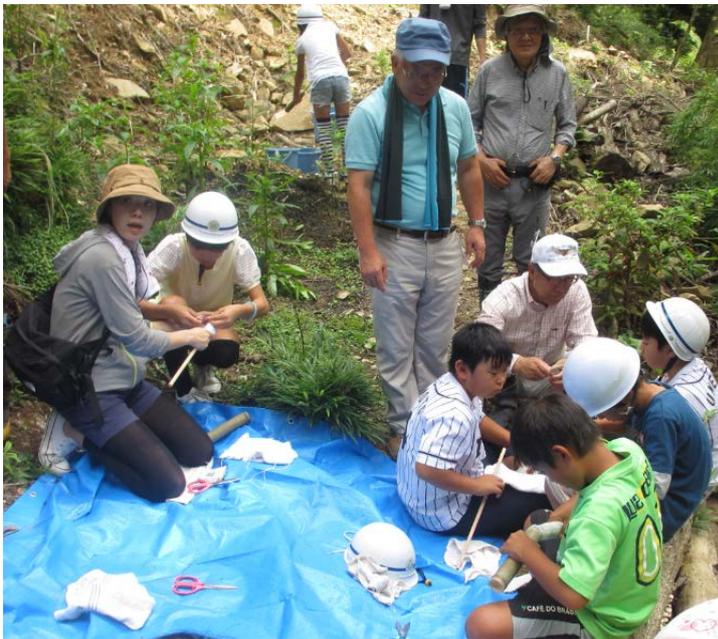
(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

- ・ 今後この事業に取り組むにあたって以下の知見を得た
- ①伊賀地区から海地域への移動が予算・時間的なネック → 補助事業を利用する
- ②学校行事とする → これによって小学校側の全学的な取り組みが可能
場合によっては、「泊り」も可能になる
- ③開発した 3 種類の教材はいずれも子供の反応が良く、海岸地区でも山間地区でも利用が可能である
- ④山～海への一貫した捉え方は、教科書 (特に社会科) にあるがなかなか実感が伴わない。
これは小学校側と大学側の共通の認識である。かかる事業によってこれをサポートできれば両者にとって有益である。

(7) 活動の風景



7 月 玉滝小学校での虹の実験教室



8月24日 勝地での水鉄砲作り



8月31日 旧丸柱小学校 オーガニックフェスタ



1月 鞆田小学校 アコヤ貝の解剖